

同窓会報

NO. 24
1978. 1

発行——山形県米沢市門東町1丁目1の72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238-22-0091



○——主な内容——○

新名簿完成

職場訪問

新しい中国を訪問して

古い校歌も大切にしてほしい

ママさんバレー奮戦記

私と音楽の出会い



同窓会主催記念音楽会
日本女声合唱団

学園
近況

▲「各地で熱烈な歓迎をうけてきた」といつて校長先生が、中国の教育事情視察を終えて帰つてこられた。その数日前には、荒井先生が、高校生のヨーロッパ観察旅行の引率を無事果して帰校した。数えてみると、ここ二、三年の間に、海外研修をした本校職員が十数名になっている。先日は、学校に「東南アジア青年の船」の一一行（インドネシアなど六ヶ国総勢三十一名）が親善訪問し、にぎやかに生徒たちと交流を深めて帰つて行った。

▲この夏、九里学園で第一回のインターナショナルサマーセッションを開催した。高校生は本校の生徒に限定したが、小中学生を広く募集したところ、県外からの参加者を含めて二百数十名に達した。もちろん、一番最初に同窓生の方々に募集案内をしたので、同窓生の子弟もたくさん参加した。子供たちは、暑さなど気にもせず、外人教師と楽しい二週間を過した。言葉など通じなくとも何の抵抗もなく授業に融けこんでいった。

▲昨年に引き続いだ、全国の先進私立高校と提携してハワイ夏期セミナーを実施したが、今年も十三名の本校生が、遠藤岩根先生の引率でこれに參加した。マウイ島にあるラハイナルナ高校の夏休みを利用しての研修で、全員がこの学校の寮に泊つて、現地の先生方から英語などの多彩な学習を指導していただいて、元気で帰ってきた。

▲いまの子供たちが、大人になつて活躍する舞台は、二十一世紀の世界である。資源のない日本のことだから積極的に海外とのかかわりを求めてゆかなければならぬ。創立七十五周年に出した九里学園の提言の一つは、このようにして着実にその第一步をふみ出している。

新名簿会

昨年から作成にとりかかりました会員名簿が、ようやく完成しましたことを皆様とともに喜びたいと思います。卒業してから三十年、四十年、一度も連絡のとれないクラスの一人ひとりを、苦労なさってご調査下さいました多くの方々、又勤めに家事においまわされながら、調査にご協力下さいました方々、本当にありがとうございました。こうして皆様のおかげで出来上りました名簿の頁を開いておりますと、調査、編集をしておりましたときの出来事がいくつか思い出されます。

今年の夏休み、学校で名簿の整理をしておりましたところ、卒業生と思われる方がそのお子様らしい二人の方と、玄関の前でなつかしそうなまなざして、校舎を見ておられたのでおはいりいただきました。その方は戦前のご卒業で現在は東京で生活しておられるとのこと。七月の始めて名簿作成のため、クラスの旧友から電話連絡があり、わすれかけていたご自分の母校が急になつかしくなり、お盆でお里帰りしたので子供たちにお母さんの母校をみせてやりたく立ち寄られたとのことです。

さつそく校舎の中を案内してさしあげましたところ、お母様はお子様方に、みちみち恩師、友人、戦争のこと、お裁縫の苦労など学校時代の思い出を話しておいででしたが、おむつましいお話しぶりの中に、この学校の卒業生であることを誇りに思ふお気持ちがうかがわれ、ほのぼのと胸の暖まる思いでした。思えば名簿作成のとりもつ貴重なご縁でした。

こんなこともありました。明治の創立当時卒業なさった方々のご生存もできるだけ調べようと、同姓を電話帳で調べ次々とかけてみました。おかげなく「家には九里学校卒業した人はおりません!」その言葉を耳にし、もう電話するのをやめようかと思った時もありました。でもちらこちら電話しておりますうちに、ちららのお宅はきっと卒業生のお宅だな、と始めの言葉づかいを耳にしたばかりでわかるようになりました。丁寧で上品なのです。こちらでも姓を名のりはしますが、どんな人がどんなところからかけているかもわからぬのに、応対の丁寧さ、そして最後には必らずといつていいほど名簿作成の労をねぎらって下さいました。



雨の日も風の日も

名簿

るのです。そのお心づかいに感じ入り、立派な名簿を作らねばとはげまされました。

大先輩の方々は直接九里とみ先生のご指導をうけられ、お裁縫はもとより、朝のご挨拶、日常の言葉づかいの端々までのご指導と聞いておりまし

たが、そうした教育をうけられた先輩方の築かれ

たご家庭の教育が、お子さんやお孫さんの代になつても立派に生きつづけているのははつきり確か

めた思いでした。なにかと忙しく、事務的な言葉づかいになりやすい私自身の日常も反省させられました。

こんな経験のたびに心が豊かになるのを感じ、名簿作成のはげましになりました。

それでは名簿が、九里学園の伝統につながる皆様のご縁をますます深めるお役に立ちますようお祈りして、筆をおきます。

(昭和二十五年卒 遠・文 記)



(昭和37年度卒)

後藤マサ

光陰矢の如しといいますが、卒業してから早くも十五年がすぎてしまいました。

かねがねクラス会の事で皆様から催促され幹事の一人として大変恐縮していましたが、十月九日に十三年振り二回目のクラス会を無事終えて記念に撮った写真を見てほつとしているところです。

じが致しました。

その後、十月十六日に記念音楽会の反省会及び講演会(同窓会長、竹田カツ氏の「中国を訪問して」)を母校の新装になった生徒館をお借りして行なわれました。参加者が少なく、大変残念ではありましたが、九里校長御夫妻の出席もいたとき、貴重な御意見を賜わりました。最後には、同窓生特製の「もも煮」に舌鼓をうちながら意見の交換をし、楽しい秋の一日を過ごすことができました。

これから記念音楽会の持ち方については、「記念音楽会準備委員会」を設けて、その中で広く同窓生方々の意見を集約し地域文化向上に役立つ芸術活動を目指して、力強く進むべきであり、努力すべきであるといった話し合いになり

記念
音楽会

● 同窓会名簿の申込は ●

同窓会事務局 (0238-22-0091) へ直接
電話かおハガキ、申込用紙等にて申込んで下さい。

郵送 希望の方は1,300円
在校生依頼の方は1,000円

※代金は

です。

ついに完成

新名簿を

*ました。地元在住の方々に発起人に
なつてもらい、早速案内状と同級生名
簿を作つて郵送しましたところ、名簿
を見て以外と自分の近くに住んで居ら
れるのに気づかれて何年振りかで電話
交換した方々も居られました。
当日の出席者は二十一名で母校に集
合し、わが恩師荒井先生に校内を約一時
間案内していただきました。玄関には、
山崎先生と遠藤文子先生が笑顔で迎え
てくださいました。学校の建物、

「いらっしゃい」ととても優しい笑顔で私達を迎えて下さいました方は佐藤（旧姓小川）せつさんです。金池にある中央保育園の主任をなさつておられる方です。丁度お訪ねした時はお昼寝の時間で、みんなかわいらしい寝顔ですやすやと睡っていました。部屋や廊下のあちらこちらには、お花や動物の絵が貼つてあり、角の方にはとつともかわいらしい水飲み場がありました。

佐藤さんは、この道二十年のキャリアの持ち主で、その上仕事と家庭を立派に両立させておられる方です。昭和二十二年に御卒業です。実家が白鷹でしたので朝4時起きして、一里の道を駆まで歩いて通いそれから汽車で通学しました。今考える力で持つていたんでしょうね」と当時を懐しむ様に語つて下さいました。

卒業後すぐ小国小学校の教員になられ、そこで今のお主人に見初められ、二十一才の若さで御結婚なさったとか。3人のお子さんに恵まれ、子供は自分の手で育てたいという考え方で退職なさいましたが、向学心、なお止みがなく育児の合間に勉強を続けて、御主人にも内緒で保母の試験を受けた

設備といいまつたく変つて羨ましくもありその反面厳しさを感じました。会は、学校の西向いの招湯苑でおこないました。先生は、私達が第一回目の卒業生なので印象深く残つて居られるそうです。音楽会で入賞した歌「もみじ」や校歌、先生が卒業の時に歌つてくださった「北帰行」等みんなで合唱しました。

皆様それぞれに家庭の中核となり精一杯がんばつて居られるお話を伺つて感激し大変楽しく懐かしく一日を過ごす事が出来ました。そして、また四年後の再会を誓いました。

ら見事バス、その時、小国町の保育園から再々頼まれ勤める事になったのだそうです。以来この道一筋に頑張つておられます。

さて最近の園児について佐藤さんは、こんな風に語つておられました。「マスクの影響で、聞く事話す事は早いけれども、考えることはしないし落ちつきがない。遊び方について昔は、自然の中

中央保育園 佐藤せつさん



昭和二十二年卒

保母さん20年目のさわやか味

ました。そのためにも、同窓生のおひとりおひとりが折にふれて御意見をお寄せいただきたいものと思います。
(昭和四十一年卒 志田記)

時がたつのを忘れる位充実したお話をしました。どうぞ、これからも、澄んだ瞳に困まれながら元気に御活躍されることを心からお祈り申し上げます。

(昭和四十六年卒 永井記)



で自分で遊びを見つけたのですが、今は自然に恵まれていないから道具を与えてやらないと何もないでいます。又健康面に於いては、火傷が少なくなりましたが、虫歯がとても多くなりました」幼児教育について「時代が変わつても理念は昔も今も同じです。一人一人の子供を大切にのびのび育つ様にと、毎日暖かく見守つてやらなければなりません。いろんな問題が未だ沢山あります、自分が、自分なりの教育をこれからもやつていきたい」と、とても意欲的でした。そんな姿に同じ女性としての強さを感じました。でも決してそれだけではなく、強さの中にやさしさ(思いやり)がひめられてありました。「長い間勤めていたいられるのは主人や子供の理解と協力があつたからです」としみじみ語つておられました。

最近女性の生き方も封建時代には思いもよらなかつた発言力を身につけ、新しい生活を切り開いていくうとする姿勢が強く感じられます、ただ単にウーマンリブ的な生き方であつてはいけない。常に一個の人間であると共に女性らしさを持つているいきいきした女性。佐藤さんはそんな両面を兼ね備えた、新しい良妻賢母の女性だと感じました。

新しい中国を訪問

会

長

(昭和14年卒業)

竹田 力ツ

一九七五年中国農業会の招きにより、三週間の日程で、國慶節を慶祝しながら農民と交流を深めできました。また、二回目は「山形県友好のつばさ」の百三十名による未だなかつた程の大規模な団体で、二週間にわたり中国の社会主義建設の各分野を參觀し、學習を深め、日中両人民が相互理解をし永遠にわたる平和と友好と發展をはかるため訪問してきました。

農業を基とし、工業を導き手とし、深く壕を掘り食糧を貯え霸權を好まずの國の姿勢、また、昔を今にかえすが如き名勝古跡の数々、各地での熱烈なる歓迎に毎日が驚異と感動の連続でした。

印象深い國慶節

一九七五年第二十六回国慶節の前夜祭は国内の外の代表四千人が参加して人民大會堂で開かれました。十二三人に別かれ、テーブルは目を見張るばかりに美しく飾られ大変な御馳走でした。鄧小平副首相の誠に短い挨拶のみで静かな音楽の流れる中、和氣あいあいと乾杯懇親が続きました。翌十一月一日は國慶節、中國全人民が全ての仕事を休み各地でお祝いをする日です。北京には約六十万の老若男女が集り広場や公園やいくつかの建物の中は、踊りや民族演芸、展示、儀物で賑わいました。私は中山公園と頤和園の祝賀の催しに参加しましたが、式典と云つた堅固いものを想像していた私はまるで子供の頃の村のお祭りを思い出させる様な雰囲気におどろきました。

幼稚園児、小中学生、農民、漁民、工員等総ての層の人々が踊り歌い演じ、肩をすり合つ程の混雜でしたががどの顔も楽しさが溢れ、目は輝いていました。これ等の總ての催しの中に國家の意志と建設の思想が表現され少しの無駄も無い事に驚異さえ感じました。世界各国の人々が参加して建国の記念日をあんなに楽しく祝う国が有るでしょうか、参加した人々は楽しみの中で更に國を發展させるための力になることを誓う事でしょう。

『人民公社』(農業)

中国の総人口の八〇%が農民であり農村は人民公社と云う大きな組織で営まれています。その中には工場も病院も学校も統てがあつて日本に於ける一地方自治体と考えられます。

小鳥用に残された柿の木のてっぺんの実は、夕陽を浴びて赤く燃え、ふるさとの家々の庭を明るく彩っているのではないか。

お懐かしい母校の校長

先生始め皆様、お元気でいらっしゃいますか。母校と申上げるにはあまりに大きく素晴らしい程の存在ではありますけれど、でもやはり母校です。全国に散つてゐる数多くの同窓生もきっと今頃、母校やふるさとの事を思い出しているのではないか。

ここ東京支部も、いさかか老いの目立つ会員

が多くなりましたもののみんな健在です。

会長 若林とくさん

幹事 占部栄子さん

高橋たまさん

が多くなりましたものみんな健在です。

東京 // 支部 だより

東京

//

支部

だより

の方々で、五十一年十一月十八日には日黒雅叙園にて同窓会を開きました。会長始め幹事の皆様の一方ならぬお骨折で、それは楽しい会でございました。かつて先生であつた方々と生徒であつたものとが一つにとけ合い、九里とみ先生を偲んでしばし黙禱のあと、美味しいごちそうを食べながら、アルコールも少し入り、思い出話を花が咲き、唄や踊りが出来る頃はみんなの顔がニコニコ、アハハハと大きな笑い声のうずになりました。

私共の集まりの中にお若い方々も加わって下さつたら、新風が入つて思い出話の上にこれから希望なども湧いて、もっと楽しくにぎやかになるのではないかしらとみんなで希望して居ります。

東京在住の皆様ふるつて御参加下さい。終りに母校の皆様の御健勝と御発展を心よりお祈り申上げてます。

昭和五十二年十一月 (昭和三年卒 西村操)

農業と云えば中国のいたる所に「農業は大寨に学べ」と書いてあります。その大寨人民公社を訪問してきました。北京から夜行列車で約六時間、陽泉の駅から車で二時間、七つの谷と八つの山に人工平原を作り年毎にめざましく生産を上げた所です。農業に全く適しない土地を現在までに作り上げ、農業は水利が基本であるとして各地に井戸を掘り水を流すためダムが立派に作られていました。説明を聞き実際を見学してこんな言葉が強く頭に残りました。

「自力更生、三結合、三不要。」農業技術の機械化や日常の生活様式は日本の比ではありませんが、取り組む姿勢と根性には学ばねらぬ点が多くありました。そして年々生産を上げ豊作を喜びとする農業がうらやましくさえ思われました。

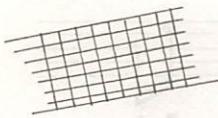
教育

北京市第三十五中学校を訪問しました。生徒数二〇六〇人、教師一六〇人、知育、德育、体育を基本としていました。文化知識を持つ勤労者に育てるのが教育の根本との話しに感銘しました。

教育期間中の八ヶ月間は文化知識をつけ、二ヶ

中国の子供たちと





佐藤久子

ママさんバレーボール奮戦記

バレーボール・ワールドカップのおかげで、バレーボールのファンがぐんとふえたこと、また母校のバレーボール部の活躍を耳にするたび本当にうれしく思います。そこでひとつ私達のバレーボールのことも書いてみたいと思います。

私は、昭和28年度卒業で一女二男の母親です。年令43才、小学校P.T.A活動としてバレーボール部が出来てから、10年間ずっと米沢中部チームの一員として頑張っています。

我チームの年令は30才から49才まで平均年令39才という若さです。!? エースアッカーガがこれまた同窓生の朝倉さん（旧姓 鈴木啓子さん）です。また市で最も年長のバレーボール部員の前山さんも同窓生です。（彼女は、部きってのはりきりママさんです。）

各地区のチームの中にも同窓生が必ずいらっしゃいます。試合があるたびになつかしくお会いし、つい自分の近況の話などに花を咲かせてしまいます。

私達のチームは市内の中央部なので、ほとんどが商店の方です。日中は、店と子供の世話を追われる毎日ですが、それでも週二回夜の8時から10時まで小学校の体育館をかりて練習しています。コーチもお願いして、基礎から習いました。サーブ、レシーブ、アタックと汗びっしょりで頑張っております。

白いボールを追う時、人生の苦しみも悲しみもボールと一緒にふつとんでいくような気がしますし、それが私にとっては明日への糧になっているようです。体育館せましと走り廻ったあとに飲むビールの味がまた最高なのです。

社会体育運動が各地区でさかんですが、スポーツをとおして、身体づくりが出来友達が出来たりすることはとてもいいことだと思っています。私達も子育てという大事業からようやくはなれられるようになったママさん達で、茶の間での話題をコートにもってきています。ここちよい疲労感と汗のある生活、勝敗よりも自分の体力測定と考え、ついでに料理のコツなどもちゃんと勉強しています。情熱をぶつけてバレーボールをすることが、私の年輪の広さになってくれればと思います。そして50、60までもつづけたいと頑張っています。



み上げてくるものを感じました。きっとこの学校も私と同様いろいろなことがあります。このたび初めて同級会を開きました。四年ぶりでなつかしい先生や学友に逢つたので、集まつた方々の顔にはおののの人生の荒波をくぐりぬけてきた苦労の跡が刻まれ、とうてい日や二日では語りつくせない心の中をどう表わしていくかまよつた程度です。ただただ手を取り合い肩をなで合うばかりでした。うすら寒い十一月の白布の宿で寝る間もおしい一日でした。何から話そう、何から聞こう、長すぎた本当に長すぎた四十年でした。帰りのバスも楽しい少女時代の遠足の様な気持でした。一路、我が母校へ、なつかしい母校が見えてきた頃からみんなの目は輝き出しました。昔のままの学校、磨きのかかった廊下、ふき清められたガラス戸、私達のいた時とまったく同じなのです。教室もそのまま小さな腰かけにかけたり、机にさわりなでまわしながら胸にこ

かわらず現校長の九里茂三先生にわざわざおこいいただき、私共の昔話に心やすらぎ耳をかたむけて下さいました。その時に校歌の話しが出ました。私は学生当時の校歌を歌いましたら、「いやあ、古い古い、今は新しい校歌が出てます」と私は頭から水をかけられたような思いがしました。「学校名が変る毎に校歌も変わることとは思いますが、なぜあの立派な校歌を古いものとしてとりのぞくのだろう、古い時代の土台があつてこそ今日の大きな学校があるのではないでしょか。しかもこの校歌の作詞者は、荒城の月で有名な井上晚翠先生と記憶しています。明治の暦の三十四、基は成りぬ我が母校がもう一度この校歌のもつ意味をよぶらしめほしと思つてゐます。時代に合わない校歌と笑われるのでしたらせめて校長室の片すみにでもいい、かかげていただきたいとせつにお願いするのです。なぜなら、この校歌に、私たち青春の日々も一緒にきざみこまれていますし、一緒に心を合せて歌える歌ということを私達、古い卒業生の心のよりどころもあるからです。

古い校歌も大切にしてほしい





私と音楽の出会い

私にとって、音楽との出合いは、みなさん方と比べるとかなり遅かったのではないかと思ひます。

父も母も姉弟も、音楽好きではあっても、ただラジオを聞くだけで、生の演奏を鑑賞したり、美しい合唱を味わうこと

も、できない時代だったからです。それでも、母の若い頃独唱したとか、姉もコンクールに出たとか、

女子高校時代は、音楽クラブに熱中し、もつと専門的に学びたいと願っていました。

ピアノを習ったのは中学二年時の二ヶ月

間と高校時代の三年間、音感教育に情熱をそがれ研究熱心だった落越先生にご指導をいたいた時です。今こうして、教職に在るの

もこの大先生のお蔭なのです。ピアノを買つてもらつたのは大学に入つてからですが、それまで机上をけんばん代わりにずいぶん練習したもので。家の経済上習わせてもらえないかつたけれども、かわりに、あの頃の曲を暗譜しているのは、今の皆さん方には、考えられない、私のおかしな生き方があつたからだ

と思っていました。

音大に入つてからの六時間の特訓とソルフェージュの分析、楽曲のアナリーゼなど、文には書きくせないほどですが、その後の大合唱練習会や好きな仲間と奏てる室内樂は、

大へん心が安らぎ楽しみがいのある会でした。

四年生の頃で、先輩のひくピアノが耳について夜も寝れなかつたことがありました。ピアノという樂器は私にとって初めてのふれあいで、こんなに美しい伴奏ができるとは思つてもいなかつたからです。幸い熱心に教えて下さる先生に恵まれて、放課後に教えていたたくことができました。そして音符とは、

音とは、一つずつ教わり、教則本を三ヶ月で終つてしましました。あの一枚の楽譜から、音楽がわき出すなんて、もう、じつとしている嬉しい嬉しさでした。

中学に入つてからは、若い専門の先生が入つてこられ、すばらしい歌とピアノ演奏と情熱とで、音感教育をして下さり、授業が楽し

く、二部合唱や混声三部合唱などで、かなり

力をつけていただきました。

また、合奏曲にみんなで樂器を分担し、オーケストレーションをしたり、音楽の楽しさは、レコードにもあり、深い意味を曲者心境になつて涙を流し

てみたり、あの頃ドボル・ザークの「新世界より」やチャイコフスキイの「交響曲第五番」

ショパンの「幻想即興曲」など私にとって強烈なしきでした。

女子高校時代は、音楽クラブに熱中し、もつと専門的に学びたいと願っていました。

ピアノを習つたのは中学二年時の二ヶ月

間と高校時代の三年間、音感教育に情熱をそがれ研究熱心だった落越先生にご指導をいたいた時です。今こうして、教職に在るの

もこの大先生のお蔭なのです。ピアノを買つてもらつたのは大学に入つてからですが、それまで机上をけんばん代わりにずいぶん練習したもので。家の経済上習わせてもらえないかつたけれども、かわりに、あの頃の曲を暗譜しているのは、今の皆さん方には、考えられない、私のおかしな生き方があつたからだ

と思っています。

現代の音楽、フォークソング、歌曲にいたるまで、みんな身近な所にあるものと思います。ヨハン・シュトラウスは夜ねてから、メロディーがうかぶと枕カラーヤシツにびっしり書いたとか、ピチカート・ボルカは弦樂器を弓でひかず指ではじく曲にしたらどんな感じがするだろうと弟のヨゼフと作曲したとか、音楽の解説書や

家中でコーラスを楽しんだり、合奏したり

よい演奏家の曲を鑑賞したりするのが私の夢ですが、まだ実現不可能のようです。でも私なりに私らしい生き方をして行こうと今後一つ一つ仲間をふやして努力して行こうと思つています。

昭和35年卒業
遠藤美智子

九里学園同窓会

五十二年度予算

記念音楽会決算報告

収入の部

項目	決算額	備考
前売券売上	753,000	生徒159枚 当日5枚 同窓生588枚
音楽会予算	100,000	
生徒視聴観賀費	533,600	400円×1,334人
合 計	1,386,600	

編集あとがき

一回目の編集会議は早めに行つたのですが、二回目を開くまでが長く間があります。

二回目を開くまでが長く間があります。

二十三号までは冊子が多かつたのですが、今ははじめて新聞形式になりました。お読みになつていかがでしょうか、御意見御投稿をお待ちしております。

二年かかりでようやく会員名簿が出来ました。調査下さいました方々に心から御礼申します。この名簿で全同窓生の現住所がわかります。どうぞ申込み下さい。

支出の部

項目	52年度予算額
運 営 費	104,432
a. 事務通信費	(40,000)
b. 会 議 費	(10,000)
c. 慶弔 費	(50,000)
d. 雜 費	(4,432)
事 業 費	570,000
a. 音 楽 会	(100,000)
b. 研 修 費	(50,000)
c. 名簿準備金	(350,000)
d. 会 報	(70,000)
基 本 金 繰 入	100,000
繰 越 金	860,000
合 計	1,634,432

支出の部

項目	決算額	備考
出 演 料	700,000	2回公演
会 場 借 用 料	35,300	
税 金	77,777	
印 刷 費	76,200	ポスター、入場券プログラム、チラシ
通 信 費	26,160	電話、郵送料
看 板 費	12,000	看板2枚
出 演 者 旅 費	363,307	29名
雑 費	39,490	花束、謝礼、会議費
合 計	1,330,234	